

## 令和5年度 第3回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和6年1月30日（火）午後2時00分～午後4時30分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎6階 601

出席委員：7名

瀬口哲夫委員（委員長）・杉野丞委員・三浦正幸委員・中井均委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：なし

説明のために出席した事務局職員：名

社会教育課：二村雅志教育部長・田中典子課長・鈴木幸宏副課長  
菅沼貴之岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事  
文化振興課：小幡早苗文化施設係係長  
公園緑地課：近藤淳公園活用係係長・石川純平主事  
観光推進課：谷分信隆家康公係係長  
一般社団法人 岡崎パブリックサービス

傍聴者：あり（1名）

### 次第

#### 議題

- （1）岡崎城跡坂谷曲輪発掘調査について
- （2）岡崎城天守下水管修繕工事について
- （3）さくらの樹勢回復について
- （4）龍城神社狛犬の修復について

#### 報告

- （1）菅生曲輪トレーラーハウスの延長について
- （2）天守台石垣南の松の伐採について
- （3）券売所跡地利用について

### 議事内容

- （1）岡崎城跡坂谷曲輪発掘調査について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

- 委員：A3の図が12枚ある。中段の一番左の水野時代のものをみると、③・④は内門にあたる部分に門があるが、⑤はない。これは、並べ方としては、⑤は③・④よりも後、ということか。1762年と年代が分かっているから後にしているのか。
- 事務局：①から古い順に並べている。
- 委員：1762年に写したのか。1762年作成のものを写したのか。
- 事務局：一度確認する。
- 委員：水野時代の図が少しずつ違う。
- 事務局：時代としては水野。写したのが1762年なのか、1762年に作ったのを写したのか確認する。
- 委員：写しは3枚ある。
- 事務局：時代が前後する可能性もあるのではないかということか。
- 委員：写したという事であれば③、④より前かもしれない。
- 委員：当然注意されると思うが、図をみると改修過程というのがあるので、改修のされ方には注意して調査していただきたい。
- 委員：そうすると順番が変わるか。
- 委員：変わる。
- 委員：その時の年代は絶対的なものか。
- 委員：絶対的なものではないと思う。三浦先生がおっしゃっているが、絵図はいろいろなデータが混在している。
- 委員：必ずしも新しく作ったものが新しいわけではない。古い方を写す場合もある。写すときに結構過ちが多い。
- 委員：全体から見ると改修されている雰囲気とする。
- 委員：①、②、③が本当なら改修している。
- 委員：⑥、⑦みてもちょっと違う。⑦の庄村氏の寄贈というのは、水野時代の絵図をもとに、明和8年にどのように変わったのか、他の情報も盛り込んで、例えばここは洪水で屋敷がなくなって田畑になったとか、そのような情報を盛り込んだ絵図である。なのでどの時点の水野時代を引っ張ってきているのかが問題になってくる。ここにはめ込むのかどうかは考えなければならない。
- 委員：便宜上こうやって並べているのはしょうがない。
- 委員：水野時代は100年あるので、100年のうちのどこを取るかで全然違ってくる。絵図の編纂を見る上で、平面的に並べていく作業を、前後関係を厳密にやらないといけない。概ね私が作成した編年に沿っているが、間違いがあるかもしれない。
- 委員：今いただいた意見を基に並べ替え、説明を入れて、こうゆうのではないかというのを1回作ってみてはどうか。

事務局：全体的な話になってくるので、すぐにはできないがその辺の研究も進めていく。

委員：それで「何が」この時にできたのか文献で合わせながら前後の状況を整理してみてもうどうだろう。それを出していただけたらまたある程度話し合いできる。このままでは議論が止まってしまう。

事務局：位置図と整合性を取りながらどれが自然な形なのか等含めて検証していきたいと思っている。

委員：それでは、図はともかくとして調査発掘の範囲等については原案のとおりで、皆さんご意見なしということでよろしいか。

(異議なし)

## (2) 岡崎城天守下水管修繕工事について

事務局：配布資料2に基づき説明

### 【質疑応答】

委員：これは陶管か。また、口径はどれくらいか。

事務局：鋳鉄管です。直径は10cmのものでかなり細いものになる。カメラを入れた業者さんによると7.5cmくらいではないかと。

委員：陶管を繋いでいるのか。

事務局：鉄管です。さびも生じてきているので将来的に管自体を塗り替えないといけない可能性もある。

委員：資料の文字が読みづらい。鋳鉄管と書いてあるところもあるし、右下のところは雑排水管 陶管と読める。

事務局：階段の部分に埋まっているものについては鋳鉄管。地面の下に折れて入るところは陶管が残っている。

委員：蓋は鋳鉄なんですね。蓋が鋳鉄管で、陶管と書いてあるのは一番右下の「雑排水管」が陶管。今回は下水管だから排水管か。

委員：このような場合は大抵塩ビの管に変えると思う。今回は掘削して全部出すのか、例えば管に沿って10cmより少し小さい塩ビの管を通していくのか。様々なやり方があると思うが、今の話を聞くと、掘りあげて変えていくのか。

事務局：中に塩ビの管を通すにしても柵の所から管を入れる口が必要になる。そのために柵の上側をまず開けてそこから近いところにある管に通す。もとの掘り方を使って更新の塩ビ管に変えていく。

委員：全部掘りだすということか。

事務局：その可能性はあるが、石段の深い方に埋設されているものもある。中に塩ビ管を通す管内の更新を行うが、径があまりにも細く、10cmなら技術が

あるが 7.5cm だと今の技術だと不可能だと聞いている。今後そのような技術が開発されれば掘削せずに中の作業だけで済むこともある。現在では取り上げていかないとまた詰まりが生じてしまうという状況である。

委員：掘削してやるやり方が一番確実だろうが、他の所では、陶管で詰まった場合塩ビの管に変える例もある。今回も、塩ビ管を押し込んで行けないか。これはどれくらいの傾斜か。

事務局：写真のところは地面とほぼ水平。途中から上がっている。傾斜がつく手前のところで工事が収まる。

委員：他の所では工事費が安くできるように、管が詰まったときに少し小さめの塩ビの管で押して行って施工することもあるがそのような工法ができないのか検討したのか。

事務局：塩ビ管を中に入れるにしても途中で屈曲していると、屈曲がないところからまっすぐに入れていかないといけないし、そこまでは掘削する必要がある。

委員：他の所では塩ビの管を通して元の管はそのまま、掘り出さずにやっている例がある。今回ここはできない。どのような段取りで掘っていくのか。全部剥がしていくのか。

事務局：まず柵の部分の蓋を外す。柵が綺麗に入っていない可能性があるのを確認しながら、掘り方のところを使い、管の位置を確認してそこからずれた部分まで掘り方と思われる範囲で確認する。ずれの部分については、外して塩ビ管で作り、元の鋳鉄管を繋ぎ、埋め戻す。

委員：柵のある部分まで石段をかなり剥がすということですね。再建前の写真で見ると石段は広がっている。オリジナルな部分も見極めながら作業しないといけない。

委員：古い階段の上に新しい階段を作ったのでは。古い階段が下にあるか確認しながら行うべき。

事務局：写真で比較すると下段の一番左の写真の石段が石垣を隠すように見える。なので上から貼っていると思われる。

委員：石材も違う。

委員：一つ聞くが、確認していきながら、とは。これまでの工事でやった所の掘り返しだから、それ以上のことはしないという認識ではないのか。

事務局：それ以外のことはしない。

委員：だから、それはできないのでは。

事務局：今後の検討課題として確認していく。

委員：古い石段の上に管が載っている可能性もある。

事務局：管自体も、高低があるので昔の石に沿って配管されていると思われる。

委員：元の階段を崩してまでやるのは大変なので乗っけている。

委員：元の工事の状況で掘り直すということだが、もしかしたら元の工事で石段の面が見えるのならきちんと図化するなどしておかないといけない。なので今回は新たに何もしないということだが、石段の上に載っているならその石段は確認すべき。図化するとか写真を撮るとかしておかないといけない。

事務局：工事に際しては立会をし、記録を取る予定。

### (3) 桜の樹勢回復について

事務局：配布資料3に基づき説明

#### 【質疑応答】

委員：岡崎市の史跡であるが、50cm掘り返すという妥当性はどのように検討されたのか。

事務局：例えば、表面に肥料を撒くという手法もあるが、それだと雨や水で流れることもある。

委員：そうではなく、下の史跡との関係で、50 cm穴をあけるということだがその50 cmの根拠を聞きたい。

事務局：桜の根が50 cm下にあるという事で、樹木医と確認した。

事務局：史跡との関連については、今後公園部局と話し合いながら、どこまでならいいか、できないならどうすべきか検討していくが、今回は指定管理業務として進めていく上でこれだけやっていきたいということで提示した。

委員：それは教育委員会の立会のもと進めるのか。

事務局：立会をする。また遺跡のレベルは近傍にあるものを基に公園部局と調整はする。

委員：弘前城には見学に行くのか。

事務局：令和6年度に行く予定である。

委員：弘前はうまく管理している。根が息ができるように縦穴を掘っている。それと土壌改良。今回は土壌改良材をどのようなものを使うか分からないが、パーライトやバーミキュライト、一部有機肥料を入れることもある。それを弘前で聞いてきてからもう一度計画を立ててほしい。弘前は非常に丁寧にお礼肥えなどをやっている。樹齢100年以上のソメイヨシノも立派に花が咲いている。ここに桜と書いてあるのは、シダレとソメイヨシノか。

事務局：基本的にはシダレザクラとソメイヨシノ。

委員：ぜひ行ってきてから計画を見直してほしい。もう一つ、桜は地表に根が出ていると思うが、それが木質化している。そこに土をかけると息ができなくなって死んでしまう。もしその状況を改良するなら砂利などにして根が息ができるようにしてほしい。それから、穴を開けると思うが、何か

所開ける予定か。

事務局：1本あたり10か所。桜の状態にもよるので樹木医と相談しながら進める。

委員：トレンチ式の土壌改良について、これの方が面積が増えるのでいいが、その後、土壌改良のため5か所くらい穴をあけたとして、そこに人が入らないようにすべき。また踏圧で地面が固くなって呼吸できなくなってしまう。その辺はここには書いてないがどのような段取りか。

事務局：公園になるので、どこまで人の流れというか、侵入を防ぐかということも考慮しないといけないので、木それぞれをみながらカルテを作成するなかで検討していく。

委員：人が入らないようにまわりを柵で囲うのが原則だと思う。桜の時期になって花が咲いたら根本に人が入ってくる。その対策を考えるべき。

委員：個別カルテの作成とあるが、これは管理する上で非常にいいことと思うし、岡崎公園としての役割を担うことになる。一方で、岡崎公園であり、岡崎城跡、史跡である。カルテができで今後10年後、20年後、樹齢を重ねていって根を張り、史跡と侵食する場面もあろうかと思う。先の樹木管理の所見があれば教えてほしい。

事務局：植栽の計画について、基本的には桜に限らず史跡に影響の出ないものについては現状保存、あるいは樹勢回復を行っていく。一方、史跡に影響のもののについては伐採を基本としていく計画である。その計画の通り進めていく。

委員：今、他の樹木についても行うとあったが、樹木の毎木調査が必要だと思うが、そのような調査は今まで行っているのか。

事務局：植栽管理計画を立てるときに個別の樹木についてはどこに何が生えているのか確認している。

委員：本数は分かっているのか。

事務局：本数は分かっている。

委員：その分析が大切である。今回は桜だが、石垣上に生えている木を伐採しないといけない。

事務局：伐採する予定で植栽管理計画を立て、委員会に諮っている。

委員：年に10本しか切れないのか。公園内には木が100本以上あるので、切り終えるまで10年かかる。10年かかったら元の木がまた大きくなる。

事務局：優先的に大きな木から切っていく。

委員：桜の樹勢も大切だが、石垣を毀損する樹木を伐採する計画も立ててほしい。

事務局：石垣上の毀損樹木伐採は年間200万円程度の予算を取って切れる限り切っている状況である。どのような順番で切っていくか一度確認する。

委員：切った後、ひこばえがいっぱい生えてくる。それを処理する必要がある。特にクスノキはよく生えてくるため、後の手当をやる必要があるのでは

ないか。そちらのほうが大切である。

事務局：石垣上の樹木の伐採は、社会教育課で行っている。年間 10 本程度だが、ひこばえについても手入れを行っている。

委員：先ほどあった、深さについては立会のもと行うということをお願いしたい。また、それをどこかに記載しておいたほうがいい。深さ 50 cm を掘ることは承認された、では誤解を招きそう。

### (3) 龍城神社狛犬の修復について

事務局：配布資料 4 に基づき説明

#### 【質疑応答】

委員：松は引っこ抜くのか。

事務局：松は抜根までする。こちらについても社会教育課の職員立会のもと行う。

## 報告

### (1) 菅生曲輪トレーラーハウスの延長について

事務局：当日配布資料 5 をもとに説明

#### 【質疑応答】

委員：延べ来場者数はどのように換算しているのか。

事務局：イベントごとにそれぞれ集計している。基本的には主催者の報告、もしくはこちらがカウントした大まかな人数の積み上げである。

委員：引き続きイベントは開催するのか。

事務局：はい。

### (2) 天守台石垣南の松の伐採について

事務局：当日配布資料 6 をもとに説明

#### 【質疑応答】

委員：石垣を毀損する可能性があるから切らざるをえないと思うが、切った後の松は市民に還元されるのか。産廃になるのではなく、市民が使えるような方法を考えた方がいいのではないか。

事務局：現状、伐採業者のほうで活用していただいているという認識である。

委員：切った後の角だが、切って面取りして丁寧に処理してほしい。また、なるべく下の方で伐採してほしい。よくあるのが、公園課の伐採だと膝くらいの高さで切って、切りっぱなしの所が結構ある。

事務局：人が立ち入る所なのであまり低すぎて、つまづいて転んでもいけない。

委員：それはありえない。大阪城でもあったが、業者は膝くらいの高さなら切りやすい。低く切って角の所を面取りしてもらおうと、ぱっと見は石みたいいに見える。そのような丁寧なやり方をしてほしい。チェーンソーで切

るなら簡単にできると思う。

事務局：面取りはしてもらっている。また、園路上近くの木はどうしても子供が通ることも考慮しなければならない。

委員：お城の中の伐採の考え方として、低く切って面取りしてもらおうほうが、風致的にもいいと思う。調整してほしい。

事務局：公園としての安全管理上もあるので、公園管理者の公園部局と調整のうえ進めていく。こちらとしては低く切ってほしいというお願いはする。また、どこまで切るかという話だが、石垣沿いの木は下部まで切るのはちょっと厳しい。

委員：順番に上から切っていって、半分はチェーンソーだが半分は手のこで丁寧に切ってもらえれば。全部がチェーンソーでできるとは思っていないし、石垣に当たっている所は手のこでやればいい。それは森林組合といえど、特記仕様書で指摘したらできるはず。これを切ってくださいではなく、史跡であるから丁寧に言うように仕様を変えてください。

委員：岡崎藩の技術者である松下鳩台が『山家樵談』という記録のなかで、本丸にある三郎松のことを書いている。その時代からするとかなり大きな木になるので、2代目3代目であろうがそれが本丸にあるとすると、石垣を毀損するのもあるが、それがどの木であるかという特定も必要ではないか。岡崎城の中の伝承ともすり合わせる必要があるのではないか。単純に全部切っていいわけではないと思う。

事務局：松自体を全部切るとは考えていない。基本的に植栽管理計画上でも、歴史的景観の維持というところで、本丸にある松は保全が大前提となっている。植栽管理計画を作成する中で、本丸の松についてはいわれを確認するようにという指摘は受けていた。

委員：江戸時代末期の絵があるはず。岡崎市史に『山家樵談』は載っている。

委員：三郎松は月見櫓の近くなので位置が違うと思う。今の忠魂碑のあたり。

事務局：資料には載せていないが、明治期の月見櫓から撮った写真を見ると、天守の前に小さい、松か分からないが木が確認できるが、松が生えているという認識は正直ない。

委員：三郎松については改めて確認したうえで、伐採と言う方向でいいと思う。

### (3) 券売所跡地利用について

事務局：当日配布資料7をもとに説明

#### 【質疑応答】

委員：東隅櫓にある展示物を旧券売所に移設するということか。

事務局：はい。期間は未定。